

その他の仮設物、建築物、構築物等を起因物とする崩壊・倒壊の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	4	9 ～ 10	陸揚げされた鋼製可動橋の一部(1. 17m)をガス溶断器で切断し、切断部分の下をのぞきこんでいたときに、鋼材が転倒してきて頭部に激突した。	30105	1～9
1999	6	9 ～ 10	庭木を植えるため、庭石の際をスコップで掘っていたところ、庭石が倒れてその下敷きになった。	60101	1～9
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67. 5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	1000 ～ 9999
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67. 5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	1000 ～ 9999
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67. 5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	1000 ～ 9999
1999	7	14 ～ 15	電気炉の定期修理作業で、電気炉の残さい物取出口において残さいのかきだし作業を行っていたところ、残さいの飛びはね防止用に設置していたL字型の防壁板が突然倒れてきて顔面を直撃した。	11001	100 ～ 299
2000	1	9 ～ 10	電車の振動で生じる地階の外周コンクリート壁のクラックを最小限に押さえるため仮に設置したコンクリート仮設物(バットレスと呼称)を手持ちのコンクリートブレーカーで破碎していたところ、1つのバットレスが作業に倒れて来て押しつぶされた。	30209	10～ 29

2000	11	11 ～ 12	大型のボックスカルバート用型枠の補修作業で、四角柱形の型枠を固定していたボルトを外していたときに型枠(1枚500kg)が倒壊し下敷きになった。	11209	1～9
2000	4	16 ～ 17	農業用倉庫のシャッター枠(高さ3.1m、長さ2.7m)を倒してトラックに積み込もうとしていたところ、枠がトラックの反対側に倒れて前額部にあたり頸椎を損傷した。	30209	1～9
2000	4	14 ～ 15	橋梁につり足場を設置するため、河川敷に簡易枠で作業構台を組み立てラフタークレーンでつり足場の部材をその構台に降ろし、部材の荷はずし作業を行っていたときに同構台が倒壊した。	30209	1～9
2000	1	13 ～ 14	下水道工事において、道路を掘削して掘削下部に入り土留め鋼矢板を保持しているときに、背部のコンクリート擁壁が倒壊し下敷きになった。	30110	30～ 49
2001	2	10 ～ 11	コンクリートブロックの型枠解体作業において、フォームタイ(せき板を両側から締め付ける器具)の抜き取りをしていたところ、型枠(約300kg)が倒壊し、下敷きになった。	30111	1～9
2001	2	16 ～ 17	2つで1組の鋼製型枠の解体作業中、立てかけていた片方の鋼製型枠(質量900kg)が強風のため倒れ、倒れてきた型枠と解体中の型枠との間に頭部をはさまれた。	30201	30～ 49
2001	2	16 ～ 17	個人宅のベランダ工事において、手すりとして使う丸太をボルトで固定する作業をしていたときに、丸太製の手すりが倒れてきて、その下敷きになった。	30202	1～9
2001	4	10 ～ 11	単管で補強していたブロック塀(高さ2m)を解体するために単管を外し、単管をかたずけていたとき、ブロック塀が倒壊し、手伝いに来ていた土工が下敷きになった。	30309	10～ 29
2001	8	9 ～ 10	高校のグラウンドにおいて体育祭用の応援席スタンドの組立中、トラス材(1本約100kg)数本が倒れその下敷きになった。	30199	1～9

2001	10	8 ～ 9	建設工事現場で上床縦桁鉄筋を組立て中、鉄筋が崩れて下部で作業中の者2名が鉄筋に押し潰された。	30103	1～9
2001	11	0 ～ 1	ガス管2本を埋設するため、掘削深さ1.4mのところではガス管の接合部の調整作業をしていたところ、掘削箇所と並行して建っていたコンクリートブロック塀(1.5m×3.6m)が倒れ、掘削箇所のアスファルト部と塀との間に頭部をはさまれた。	30199	10～ 29
2002	1	10 ～ 11	団地テレビ共同受信施設専用の円柱状の塔(長さ約8m、直径約13cm、地上高約6.6m)73本の撤去作業中、その内の1本の鉄塔が腐食により根元より折れ、円柱状の鉄塔と共に地面に叩き付けられた。	30301	0
2002	8	8 ～ 9	商店の土間に砂利石を敷く作業が終了し、門扉(高さ1.8m、長さ9.4m、重さ約200kg)を閉めたときに門扉が倒れ、地面と門扉との間に挟まれた。	30199	1～9
2003	1	16 ～ 17	倉庫前のスクラップ置場で、マグネット式の高脚ジブクレーンにより運搬船にスクラップを積み込む作業のため、散らばったスクラップを手でかき集める作業を行っていたときに、倉庫シャッターを防護するため覆いとして設置されていた鉄板(縦415cm、横459cm、厚さ1cm、質量約1.2t)が倒れてきてその下敷きになった。	50202	10～ 29
2003	1	11 ～ 12	砂防ダム本体横の法面(のりめん)に積んだブロックの裏面が空洞化していたので、生コンクリートで裏込め作業中に、ブロックが崩壊してきてブロックと生コンクリートに埋まった。	30108	1～9
2003	3	13 ～ 14	県道沿いにある防雪柵の収納作業で、防雪柵の支柱を固定している2本のボルトのうち1本のボルトを外し2本目の固定ボルトを外したときに、支柱が倒れたため支柱と防雪板との間に腹部をはさまれた	30199	10～ 29
2003	5	16 ～ 17	煙道の耐火材(キャスト)の撤去・搬出作業中に、煙道の天井部分の耐火材の一部が崩壊して直撃された。	30203	1～9

2003	7	13 ～ 14	長さ約10mのH型鋼3本をボルトで連結して長さ32mの梁（重さ約8.5t）を組み上げる作業で、梁の地組作業が2本並行して行われていて、2名が地上に2本平行に置かれている梁の約1mの隙間に入ってボルトを締める作業を行おうとしたときに、1本の梁が倒れ2名が下敷きとなって1名が胸部圧迫で死亡した。	30201	10～ 29
2003	7	13 ～ 14	建築中の建物の1階駐輪場内において、給排水管等材料棚（移動式足場用建わく：幅1500mm、高さ1525mm）の最上段に積んでいた材料を取ろうとしたときに、筋かいまたは水平つなぎが設けられていなかったため突然棚が倒れたため棚と壁との間に胸部をはさまれた。	30203	10～ 29
2003	9	9 ～ 10	ライスセンター内の粃殻庫から粃殻をトラックに搬出する作業で、粃殻庫の下部に設けられているコンベヤに粃殻が落ちてこなかったため粃殻庫の上部から入って棒で粃殻を突いていたときに、粃殻が崩れて粃殻の中に埋もれ窒息死した。	170209	1～9
2003	11	8 ～ 9	道路拡幅工事において、高さ約5mの単管上で防護柵の溶断作業を行っていたところ、鉄板に安全帯のフックを引っ掛けていたところ防護柵の鉄板が倒れて落下し一緒に墜落した。	30199	1～9
2003	12	15 ～ 16	遊技場の建築工事において、建枠を使用して組み立てた照明灯を設置するためのタワー（10.5cm）が強風にあおられて転倒し、そばでタワー部材の片付け作業を行っていた者が下敷きになった。	30201	1～9
2004	1	10 ～ 11	資材置場の敷地内に掘った焼却穴を塞いでいた四角すい形の鉄製の蓋を角材で支えていたところ、角材が外れて蓋が閉まり、近くにいた被災者に接触した。	170209	1～9
2004	10	9 ～ 10	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に従事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コンクリートで吹付けられた法面（のりめん））ともたれ擁壁の天端との間に挟まれた。	30199	10～ 29
		9	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に従事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コ		10～

2004	10	～ 10	ンクリートで吹付けられた法面（のりめん）ともたれ擁壁の天端との間に挟まれた。	30199	29
2005	1	13 ～ 14	土止め支保工として使用していたH鋼を撤去するためにH鋼の根元をガス溶断していたところ、溶断していたH鋼が被災者の上に倒れてきた。	30201	1～9
2005	7	10 ～ 11	基礎工事のため掘削された部分の埋戻し作業に関連して、スラブ側に埋戻しの土砂が入り込まないようにするため、ドラグ・ショベルにて鉄板（重さ700kg）をつり込み、これを立てて鉄板が自立したところで玉掛用具を外したところ、当該鉄板が倒れて、これと地山との間に挟まれた。	30201	30～ 49
2005	12	9 ～ 10	道路拡幅工事において、既存のブロック塀をドラグ・ショベルで取り壊し作業を行っていたところ、当該取壊し箇所と繋がったブロック塀近くでフェンスの撤去作業を行っていた被災者の方にブロック塀が倒壊した。	30106	1～9
2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	30106	30～ 49
2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	30106	10～ 29
2006	2	17 ～ 18	仮組みした炉の解体作業を被災者2名で行っていた。複数の鉄板で構成された炉を天井部から解体し、残った東側3枚（相互にボルトで接合された垂直材及び水平材1枚）の水平材を取り外すため、両端から2人でボルトの取外しを行っていたが、最後のボルトを外した際に垂直材が2名の側に倒れてきたため、下敷きとなり被災した。	11702	0
2006	5	11 ～ 12	被災者は建屋の外壁（腰PC板高さ1.185M、長さ3.2M、幅0.13M、重量1.3t）取付け作業中、PC板を溶接で仮止めした後、PC板の取り付けを行ったが、取付け位置が低かったことから、位置を修正しようと別の作業者が被災者の反対側からバールにて浮かして当て板をその隙間に	30201	1～9

			入れて高さ調整を図っていた時に、仮止めしていた溶接部分が外れたことにより、PC板が被災者側に倒れて挟まれた。		
2006	9	10 ～ 11	事業主がドラグ・ショベルを運転して堆肥を堆肥散布機に積み込む作業を、被災者は数10m離れた場所でこぼれた堆肥をスコップで片付ける作業をしていた。事業主は、次の作業のため堆肥の山の端に鋼板（6m×1.5m、重量1.6トン）を設置し、バケットを鋼板から30センチ離れた位置に止めた後、数分間その場所を離れたが、戻ってきた時に、被災者が鋼板とバケットの間に挟まれているのを発見した。	60101	1～9
2007	10	9 ～ 10	防波堤築造工事において、消波ブロック（16tのテトラポット）の据付作業のため、支障となっていた据付済の消波ブロックの位置の修正作業を行っていた。3つめの据付済みの消波ブロックを移動式クレーンでつり上げ、位置を修正しようとしたところ、その周囲の消波ブロックが動き、その上に乗っていた被災者は、バランスを崩して当該ブロックから転落し、既設の消波ブロックに激突した。	30111	1～9
2008	7	16 ～ 17	個人住宅の敷地内にあるボイラー室の解体工事において、高さ245cmのボイラー南壁の高さ107cmから上部の壁を解体するためにサンダーで切り込みを入れ、チッパーではつり作業をしていた。その際、高さ（107cm）から上の南壁全面が北側に倒れてきたため、北側で作業をしていた3名にあたって負傷して1名が死亡した。	30209	1～9
2009	5	14 ～ 15	被災者が1人で水道管メーターの交換作業のため、スコップで地面（縦95cm、横80cm、深さ105cm）を掘っていたところ、隣にあったホームタンク（容量490リットル）が倒れて、掘った穴との間にはさまれた。	30199	1～9
2009	9	10 ～ 11	地下1階、地上6階建のS造建築物新築工事現場において、仮設作業構台の組立作業中、コンクリート土間に敷桁を設置し、その上に3本の支柱を順にクレーンでつり上げ脚部を敷桁にボルト固定する作業を行っていた際、3本目の支柱を固定し終わり、つり上げていた玉掛けを取り外したところ支柱3本が敷桁ごと倒壊し、付近で作業を行っていた被災者が支柱の下敷きになった。	30201	1～9

2009	9	14 ～ 15	被災者は、作業員Aと2人でボックスカルバート内部への土砂の進入を防ぐため、出入口を鉄板（縦3m、横1.5m、重量800kg）で塞ぐ作業を行っていた。作業員Aがドラグ・ショベルを操作して、鉄板をワイヤロープでつり下ろし、被災者が鉄板を支える木板を取り付けワイヤロープを鉄板から外そうとしたところ、鉄板が被災者の方に倒れ、鉄板とトン袋（土嚢）との間にはさまれた。	30106	1～9
2010	2	9 ～ 10	ボックスカルバート製造用の型枠の解体作業中、側面の型枠が倒れ、被災者がその下敷きとなったもの。	10901	1～9
2010	8	6 ～ 7	橋げた（コンクリート製）の製造工程において、型枠1枚（高さ140cm、長さ300cm、重さ620kg）を、天井クレーン（つり上げ荷重15t）を使用して取り外す準備のため、型枠を固定していたクランプ（6か所のうち4か所）を取り外そうとしたが、全て（6か所）を取り外してしまったため型枠が倒れ、被災者が型枠の下敷きになってしまったもの。	10901	1～9
2010	8	10 ～ 11	通常砂防工事において、パッドウォール・ライナーを型枠として、砂防ダムを構築していた。砂防ダム内側にコンクリートを高さ1.5mまで打設し、打設位置を変えるため、打設を停止した。砂防ダム外側の釜場に設置した水中ポンプが停止したため、被災者2名が状況を確認するため、釜場まで降りたところ、パッドウォールの施工不良やコンクリート打設速度の不適切のため型枠の一部が崩壊し、釜場にコンクリートが流れ込んだ。この際、1名がコンクリート内に沈んで死亡し、もう1名は胸まで浸かり負傷した。	30108	1～9
2010	9	10 ～ 11	堰堤のコンクリート打設のため、施工中の堰堤の天場にやぐらを組み、チェーンブロック2個を用いて、2回目のコンクリート打設に使用した鋼製型枠を3回目の打設場所に引き上げる作業を行っていた。鋼製型枠を約1.3m持ち上げたとき、やぐらがねじれて偏荷重が生じたため固定に使用した番線が切断し、支柱が壊れた。この際、チェーンブロックを掛けていた角鋼管（断面6×6cm、長さ3m）が外れ、堰堤の下部で作業していた被災者に激突した。	30108	10～ 29

2010	10	11 ~ 12	雨水管理設工事現場において、被災者は深さ4mの掘削場所でヒューム管（φ700mm）設置高さを調節していたところ、湧水により地盤が緩んでいたことから、土留めに使用していたコンクリートブロック（高さ66cm、縦50cm、横147cm、重量約1.1t）が崩れ、被災者が下敷きとなり、頭部骨折により死亡した。	30199	10~ 29
2010	11	10 ~ 11	解体工事現場の搬出入口舗道上において、車道側を向いて立哨中の被災者の後部に位置していた鋼製門扉（幅4.5m、現場囲いのためシートが張られていたもの）が、突風が吹いた際に倒れてきて下敷きになったもの。	170201	30~ 49
2011	11	9 ~ 10	廃棄物処理取引先の工場の出入口において、レールの上に乗っている工場の鉄製の扉を閉めようとしたところ、閉める扉を間違えて、手前にある短いレールに乗っている扉（高さ4.27m、幅2.44m、重量350kg）を奥まで動かそうと勢いをつけて押したため、上部に取り付いているストッパーを破損し、当該扉がレールから外れ倒壊し、それを支えようとして当該扉の下敷きとなった。	150102	50~ 99
2011	8	9 ~ 10	被災者が地上から約1.8mの深さ付近の掘削溝で、手堀りにより掘削作業を行っていたところ、被災者背後の掘削面が崩壊するとともに、歩道の縁石が崩壊し、被災者頭部が崩壊した縁石と掘削面に挟まれたもの。	30110	1~9
2012	10	9 ~ 10	船体ブロックの組立作業中、センターガーダー（中心骨材、重量約1.5t）を溶接する準備のため、ピースを溶接取付けし、油圧ジャッキによりセンターガーダーを船体ブロックの壁面に押し付けていたところ、センターガーダーが作業中の被災者の方向へ倒れ、被災者はセンターガーダーの下敷きとなった。	11501	10~ 29
2012	9	15 ~ 16	ベルトコンベアの架台の側面（鉄骨製高さ2.6m、長さ9.3m）を解体する作業中、この側面が倒壊し、その下敷きとなり死亡した。なお、被災者は、ベルトコンベア架台の端の上部をガス切断機により切断作業を行っていたところ、側面がぐらついたことにより飛び降りた。そこへ側面が倒れ、下にあった別の鋼材と倒れてきた側面の鋼材に挟まれた。	11209	1~9
			沖合の海底土質調査用に単管とアルミ製足場板とでボーリング掘進の檣を組		

2014	5	9 ～ 10	立て、ボーリング準備のため、櫓のステージに被災者ら3名が上がっていたところ、櫓が傾き、ステージに上がっていた被災者らもろとも海中に倒壊。被災者ら3名は海中に投げ出され、2名は間もなく浮上し、1名は死亡した。	170209	1～9
2014	2	15 ～ 16	橋脚に構築した足場上にて、橋桁と橋桁の間にある既設の非排水材（幅約0.6m×長さ約12.75m×高さ約0.39m 154kg/1平方メートル）の撤去作業を行っていた際、止水ゴム及び支持金具（耐荷重180kg/1平方メートル）を取り外したところ、非排水材が落下し、被災者が非排水材の下敷きとなった。	30105	30～ 49
2015	3	10 ～ 11	河川災害復旧工事の現場事務所前の除雪作業を1人で行っていたところ、資材小屋に使用していたプレハブの小屋（幅約3.5メートル、奥行き約1.8メートル、高さ約2.5メートル）が突風により倒れ、その下敷きになった。	30107	10～ 29
2015	10	9 ～ 10	つり上げ荷重2.9tのケーブルクレーン1基を解体中、ワイヤーロープ数本（約500kg）の束を吊り下げた状態のまま、支点としていた仮支柱（全長20メートル、重さ約423kg：1ロットにつき2メートル×10本）1本が倒壊し、作業中の労働者2名（1名は合図者、1名は解体員）が被災したものの。	30199	1～9
2017	8	16 ～ 17	敷地（駐車場）造成工事現場において、石積擁壁の石積み作業中に積み石が崩れ、石積みをしていた被災者が石の下敷きになり死亡した。	30199	10～ 29
2017	7	12 ～ 13	被災者は、同僚らと共に仮設防護柵の撤去作業を行っていたところ、高さ4mの支柱（重量：約470kg）が倒壊し、その支柱が被災者の右側頭部を擦りながら右肩口に激突し、その反動で後方に倒れ被災した。被災者らは防護柵の部材を接合していたボルト外し作業等を行っていたものであるが、災害発生直前は、一時的に移動式クレーンの傍らで待機していたものであった。その後、被災者は搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	30106	1～9
		12			

2017	4	～ 13	被災者は、解体工事現場で瓦礫の片づけ中、現場を区画するように設置されていた囲い（高さ約7メートル）が崩壊し、その下敷きとなり死亡した。	30199	10～ 29
2017	2	～ 9	門型の鋼製構造物（以下「構造物」という。）の解体作業において、構造物を倒して地上で解体する作業を行っていた。構造物の支柱下部の一部を残して溶断し、倒し易くした状態で、ドラグ・ショベルのバケットで押し倒す作業であった。ドラグ・ショベルで奥側に倒す作業をしていた際、構造物が手前側に倒れ、運転をしていた被災者が、構造物と運転席の間に挟まれた。	30201	10～ 29
2018	6	～ 17	道路脇に裏面崩落の復旧工事において、落石防護壁としてH鋼に固定されていた敷鉄板（約900kg）が倒れ、被災者が下敷きになり死亡したもの。現場では、H鋼を立てるため、ロータリーと呼ばれる機械で路面の穿孔作業中で、被災者は穿孔穴付近で砂かきの作業をしていた。	30106	30～ 49
2019	12	～ 10	橋台等の補修工事において、橋桁の下にベントを組み立てるため、25tクレーンでベント2節目（高さ7.8m、重量約3t）を降ろした後、被災者は油圧ジャッキを入れてベントの高さを調整していたところ、当該ベントが倒れ、下敷きとなつたもの。	30199	1～9
2019	7	～ 18	木造家屋新築工事における既存建物解体工事において、掘削作業を行った。その際、着工時に存否が確認されていなかったコンクリート擁壁が出てきた。コンクリート擁壁は作業を施さず、そのままの状態を維持する予定であったが、被災者は何らかの理由でコンクリート擁壁下部をピック（手持ち削岩機）により破碎していたところ、コンクリート擁壁が倒壊し、下敷きとなった。	30202	1～9
2019	6	～ 14	新築工事の鉄骨建方において、鉄骨上部の高所作業で作業員3名がボルト締めを行っていたところ、鉄骨が倒壊した。倒壊した鉄骨と共に地上へ落下した作業員3名の内、被災者は倒壊した鉄骨の下敷きとなり死亡し、他2名も負傷した。	30201	10～ 29
		12	屋外にて、出荷する製品の補修作業を行っていたところ、被災者の背面に置いてあった雨天作業用テント（当日の作業では使用していない）が、強風の		10～

2019	5	～	影響からか倒れ、製品とテントとの間に挟まれた。雨天作業用テントは、幅	10901	29
	14		約9 m、長さ1. 1 m（蛇腹式で縮めた状態）、高さ約2. 5 m、重量不明（確認中）、車輪は片側4個、固定はされていない。		
2019	2	～	祭りのメインステージを製作する作業において、あらかじめ雪像用に用意さ	30209	50～ 99
	12		れた雪塊（奥行5. 5 m、幅8 m、高さ6～8 m、角が3本）にドラグショ		
	14		ベルで荒削りしようとして爪を立てたところ、当該雪塊が崩壊（奥行2. 5 m、幅8 m、高さ6 m、体積約1 2 0 m ³ 、重量7 2 t※密度0. 6と仮定）して近くにいた作業員2名が下敷きになった。		
2020	12	～	改修工事において、鋼矢板を使用した基礎工事を行うため、労働者3人によ	30199	10～ 29
	16		り鋼矢板（重さ約6 5 0 k g）をバイブロハンマーで打込んでいた。被災者		
	18		は打込み作業中に、状況を確認しようと溝に降り立ったところ、事前に設置していた土留め用の軽量鋼矢板（重さ約1 0 0 k g）が被災者の背中に倒れ、鋼矢板の上端と軽量鋼矢板の間に胸部を挟まれたもの。		
2020	7	～	原油タンカー（3 1万トン）の船体ブロックの一部である「小組」と呼ばれ	11501	50～ 99
	14		る部品（L字型重量約1. 5トン）をクレーンで仮置きした後、仮置き用の		
	16		バー溶接作業を行ったが設置箇所がずれていたため、レバーブロックで微調整していたところ、仮置き用のバーが折れ、小組が被災者に激突したもの。		
2020	7	～	船体ブロックの部材（縦1. 7メートル、横3メートル、厚さ1 3ミリメー	11501	1～9
	10		トル、重さ約5 0 0キログラムの鉄板）の両面を船体ブロックの縁にレバー		
	12		ブロックで固定し、溶接位置を決める作業中、船体ブロックの部材が被災者側に倒れて、頭と顔面を強打したもの。		
2020	7	～	地下変電所の変圧器搬出作業に使用するための門型仮設吊架台（電動チェー	30309	1～9
	10		ンブロックで吊り上げ、電動ローラーに載せて横引きする装置）の仮組工事		
	12		において、組立て中の門型架台が倒壊し、合図や補助作業をしていた被災者が倒れてきた鋼材に腹部を強打されたもの。		
2020	4	～	タービン建屋にタービンを冷やす海水を送るための配管を埋設するにあたり	30201	1～9
	14		障害となる旧工場建屋の杭を撤去するために、コンクリートが充填された鋼管杭（直径5 0センチメートル、高さ1. 8 7メートル）の表面の鋼管部分		

16の根本付近をガス溶断していたところ、当該鋼管杭が倒壊し、溶断作業を行っていた被災者が下敷きとなったもの。

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html